

環境委員会

委員一覧 (20名)

委員長	那谷屋 正義 (立憲)	佐藤 信秋 (自民)	芝 博一 (立憲)
理事	滝沢 求 (自民)	弘成 (自民)	竹谷 とし子 (公明)
理事	森 まさこ (自民)	雅之 (自民)	山本 博司 (公明)
理事	宮沢 由佳 (立憲)	中川 雅治 (自民)	市田 忠義 (共産)
理事	片山 大介 (維希)	松山 政司 (自民)	武田 良介 (共産)
	尾辻 秀久 (自民)	宮島 喜文 (自民)	— 欠員1名 —
	大沼 みずほ (自民)	柳田 稔 (民主)	

(31.2.7 現在)

(1) 審議概観

第198回国会において、本委員会に付託された法律案は、内閣提出2件及び衆議院提出(環境委員長)3件の合計5件であり、いずれも可決した。

また、本委員会付託の請願8種類73件は、いずれも保留とした。

〔法律案の審査〕

自然環境保全法の一部を改正する法律案(閣法第33号)は、沖合の海底の自然環境の保全を図るため、沖合海底自然環境保全地域の指定及び当該地域内における海底の形質を変更するおそれがある特定の行為に対する許可制度の創設等の措置を講じようとするものである。

委員会においては、海洋保護区設定の在り方、本法律案による規制と沖合の海底の資源開発、利用との調整の在り方、海洋環境の保全に係る監視体制の強化策、沖合域における生物多様性等の調査研究の充実の必要性、外国船舶の違法行為に対する本法律案の抑止効果等について質疑が行われ、採決の結果、全会一致をもって可決された。なお、附帯決議が付された。

フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律の一部を改正する法律案(閣法第56号)は、フロン類を冷媒として利用する業務用冷凍空調機器である第一種特定製品について、廃棄等に際してのフロン類の回収率が4割弱にとどまる状況等を踏まえ、第一種特定製品の廃棄や、建築物の解体等に際してのフロン類の回収を確認するための書面の交付、保存等の措置について定めるとともに、フロン類の引渡義務に違反した者への直接罰の創設等の措置を講じようとするものである。

なお、本法律案の審査に先立ち、委員派遣を行い、フロン回収現場やフロン破壊処理施設等の実情調査を実施した。

委員会においては、フロン類廃棄時回収率低迷の要因及びその向上に向けた方策、機器引取り時の新たな規制の実効性確保の取組、フロン類排出抑制対策における都道府県への国の支援の重要性、グリーン冷媒の安全性確保及び普及の在り方、フロン類の中長期的な廃絶方針の具体化の必要性等について質疑が行われ、採決の結果、全会一致をもって可決され

た。なお、附帯決議が付された。

動物の愛護及び管理に関する法律等の一部を改正する法律案（衆第14号）は、最近の動物の愛護及び管理に関する状況に鑑み、第一種動物取扱業の適正化を図るため、登録拒否事由の追加、遵守すべき基準の具体化、出生後56日未満の犬又は猫の引渡し等に関する特例の廃止等により規制を強化するとともに、動物の適正な飼養及び保管を図るため、特定動物の飼養及び保管の目的の限定化、マイクロチップを装着した犬又は猫についての登録制度の創設等を行い、あわせて愛護動物に対する殺傷罪等の罰則を強化する等の措置を講じようとするものである。

委員会においては、幼齢の犬猫の販売規制の在り方、マイクロチップ装着義務化に係る制度設計等について質疑が行われ、採決の結果、全会一致をもって可決された。なお、附帯決議が付された。

浄化槽法の一部を改正する法律案（衆第16号）は、浄化槽による汚水の適正な処理及び浄化槽の適正な管理をより一層促進するため、浄化槽処理促進区域の指定及び公共浄化槽に係る制度を整備するとともに、浄化槽台帳の作成、特定既存単独処理浄化槽に対する措置等を講じようとするものである。

委員会においては、今後の浄化槽の果たす役割、公共浄化槽の整備により市町村の負担が増加する懸念等について質疑が行われ、採決の結果、多数をもって可決された。

愛玩動物看護師法案（衆第18号）は、最近の愛玩動物をめぐる状況に鑑み、新たに愛玩動物看護師の国家資格を創設するとともに、愛玩動物看護師の業務を明確化するなど、その業務が適正に運用されるように規律を定めようとするものであ

る。

委員会においては、国家資格化の意義、愛玩動物看護師の処遇改善の見通し及びその必要性、今後の獣医療体制の在り方等について質疑が行われ、採決の結果、全会一致をもって可決された。なお、附帯決議が付された。

〔国政調査等〕

2月18日～19日、大阪府、滋賀県及び岡山県の環境及び公害問題に関する実情を調査し、もって本委員会に付託を予定されるフロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律の一部を改正する法律案の審査に資するため、大阪府、滋賀県及び岡山県へ委員派遣を行った。

3月12日、環境行政等の基本施策について原田国務大臣から所信を聴くとともに、平成31年度環境省予算及び環境保全経費の概要について城内環境副大臣から、公害等調整委員会の業務等について荒井公害等調整委員会委員長から、原子力規制委員会の業務について更田原子力規制委員会委員長からそれぞれ説明を聴いた。

3月14日、環境行政等の基本施策に関する件、公害等調整委員会の業務等に関する件及び原子力規制委員会の業務に関する件について調査を行い、原子力事故と自然災害との複合災害に対応した避難計画策定の必要性、中国の輸入禁止による廃プラスチックの国内保管量増大への対応策、平成30年7月豪雨による災害廃棄物対策等に係る国庫補助を次年度以降も継続する必要性、食品ロス削減目標に関する環境省の意向、パリ協定実施指針の一部項目で途上国に柔軟性が認められたことへの見解、電気事業分野に係る「平成28年2月合意」の枠組みを見直す必要性等について質疑を行った。

3月20日、予算委員会から委嘱された平成31年度一般会計予算、同特別会計予算及び同政府関係機関予算（総務省所管（公害等調整委員会）及び環境省所管）について審査を行い、環境問題解決に向けたESG金融の重要性に対する環境大臣の所見、幼齢犬猫の販売等の制限に関する調査報告書の訂正に対する環境大臣の所感、カーボンプライシング導入の結論を下す時期、国立公園満喫プロジェクトの取組状況及び国際観光旅客税の活用方針、プラスチックごみ対策についてG20の場で日本が各国をリードする方策、水俣病特措法対象外の潜在的被害者の救済策を検討する必要性等について質疑を行った。

5月23日、プラスチックごみの実態把握調査におけるマイクロプラスチックの発

生源調査の有無、海洋プラスチックごみ対策アクションプランの検討状況、G20において食品ロス削減の取組及び情報発信を行う必要性、気候変動の長期戦略策定のための懇談会における実質的議論が非公開となっていることの是非、産業廃棄物である廃プラスチック類の市町村受入れの要請と廃棄物処理ルールとの関係に対する環境省の見解等について質疑を行った。

6月11日、除去土壌の再生利用実証事業に係る住民への事前説明が不十分である懸念、除去土壌の輸送に係る一層の安全確保の必要性、JESCO法に基づく中間貯蔵除去土壌等の最終処分に関する国会報告の在り方に対する認識等について質疑を行った。

(2) 委員会経過

○平成31年2月7日(木) (第1回)

- 環境及び公害問題に関する調査を行うことを決定した。
- 委員派遣を行うことを決定した。

○平成31年3月12日(火) (第2回)

- 環境行政等の基本施策に関する件について原田国務大臣から所信を聴いた。
- 平成31年度環境省予算及び環境保全経費の概要に関する件について城内環境副大臣から説明を聴いた。
- 公害等調整委員会の業務等に関する件について荒井公害等調整委員会委員長から説明を聴いた。
- 原子力規制委員会の業務に関する件について更田原子力規制委員会委員長から説明を聴いた。
- 派遣委員から報告を聴いた。

○平成31年3月14日(木) (第3回)

- 政府参考人の出席を求めることを決定した。

- 環境行政等の基本施策に関する件、公害等調整委員会の業務等に関する件及び原子力規制委員会の業務に関する件について原田国務大臣、あきもと環境副大臣、城内環境副大臣、舞立内閣府大臣政務官、菅家大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行った。

[質疑者]

森まさこ君（自民）、宮沢由佳君（立憲）、柳田稔君（民主）、竹谷とし子君（公明）、片山大介君（維希）、武田良介君（共産）

○平成31年3月20日(水) (第4回)

- 政府参考人の出席を求めることを決定した。
- 平成三十一年度一般会計予算（衆議院送付）平成三十一年度特別会計予算（衆議院送付）平成三十一年度政府関係機関予算（衆議院送付）（総務省所管（公害等調整委員会）及び環境省所管）について原田環境大臣及び政府参考人に対し質疑を行った。

〔質疑者〕

二之湯武史君（自民）、宮沢由佳君（立憲）、柳田稔君（民主）、山本博司君（公明）、片山大介君（維希）、市田忠義君（共産）
本委員会における委嘱審査は終了した。

○平成31年4月16日（火）（第5回）

○自然環境保全法の一部を改正する法律案（閣法第33号）（衆議院送付）について原田環境大臣から趣旨説明を聴いた。

○平成31年4月23日（火）（第6回）

○理事の補欠選任を行った。
○政府参考人の出席をを求めることを決定した。
○自然環境保全法の一部を改正する法律案（閣法第33号）（衆議院送付）について原田環境大臣、城内環境副大臣、勝俣環境大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行った後、可決した。

〔質疑者〕

滝沢求君（自民）、宮沢由佳君（立憲）、柳田稔君（民主）、竹谷とし子君（公明）、片山大介君（維希）、武田良介君（共産）
（閣法第33号）

賛成会派 自民、立憲、民主、公明、維希、共産

反対会派 なし

なお、附帯決議を行った。

○令和元年5月23日（木）（第7回）

○理事の補欠選任を行った。
○政府参考人の出席をを求めることを決定した。
○内陸部におけるマイクロプラスチックの発生防止策に関する件、海洋プラスチックごみ対策アクションプランの検討状況に関する件、G20において食品ロス削減の取組及び情報発信を行う必要性に関する件、パリ協定に基づく気候変動の長期戦略の策定に関する件、産業廃棄物である廃プラスチック類の市町村受入れの要請と廃棄物処理ルールとの関係に関する件等について原田環境大臣及び政府参考人に対し質疑を行った。

〔質疑者〕

宮沢由佳君（立憲）、柳田稔君（民主）、竹谷とし子君（公明）、片山大介君（維希）、

武田良介君（共産）

○フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律の一部を改正する法律案（閣法第56号）（衆議院送付）について原田環境大臣から趣旨説明を聴いた。

○令和元年5月28日（火）（第8回）

○政府参考人の出席をを求めることを決定した。
○フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律の一部を改正する法律案（閣法第56号）（衆議院送付）について原田環境大臣、城内環境副大臣、勝俣環境大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行った後、可決した。

〔質疑者〕

大沼みずほ君（自民）、宮沢由佳君（立憲）、柳田稔君（民主）、山本博司君（公明）、片山大介君（維希）、武田良介君（共産）

（閣法第56号）

賛成会派 自民、立憲、民主、公明、維希、共産

反対会派 なし

なお、附帯決議を行った。

○令和元年6月11日（火）（第9回）

○理事の補欠選任を行った。
○政府参考人の出席をを求めることを決定した。
○住民の意向を踏まえた福島県内の除去土壌の処理の在り方に関する件、福島県内の除去土壌の中間貯蔵施設搬入に当たっての安全性確保に関する件等について原田環境大臣、あきもと環境副大臣及び政府参考人に対し質疑を行った。

〔質疑者〕

福島みずほ君（立憲）、片山大介君（維希）、武田良介君（共産）

○動物の愛護及び管理に関する法律等の一部を改正する法律案（衆第14号）（衆議院提出）について提出者衆議院環境委員長秋葉賢也君から趣旨説明を聴き、衆議院環境委員長代理小宮山泰子君、同生方幸夫君及び政府参考人に対し質疑を行った後、可決した。

〔質疑者〕

福島みずほ君（立憲）、武田良介君（共産）
（衆第14号）

賛成会派 自民、立憲、民主、公明、維希、
共産

反対会派 なし

なお、附帯決議を行った。

○浄化槽法の一部を改正する法律案(衆第16号)

(衆議院提出)について提出者衆議院環境委員長秋葉賢也君から趣旨説明を聴き、衆議院環境委員長代理生方幸夫君、同小林鷹之君、同小宮山泰子君、原田環境大臣及び政府参考人に対し質疑を行った後、可決した。

[質疑者]

宮沢由佳君(立憲)、武田良介君(共産)

(衆第16号)

賛成会派 自民、立憲、民主、公明、維希、
反対会派 共産

○令和元年6月20日(木)(第10回)

○政府参考人の出席を求めることを決定した。

○愛玩動物看護師法案(衆第18号)(衆議院提出)

について提出者衆議院環境委員長秋葉賢也君から趣旨説明を聴き、衆議院環境委員長代理生方幸夫君、同鬼木誠君、同高木美智代君、同小宮山泰子君、原田環境大臣、高鳥農林水産副大臣及び政府参考人に対し質疑を行った後、可決した。

[質疑者]

宮沢由佳君(立憲)、武田良介君(共産)

(衆第18号)

賛成会派 自民、立憲、民主、公明、維希、
共産

反対会派 なし

なお、附帯決議を行った。

○令和元年6月26日(水)(第11回)

○請願第48号外72件を審査した。

○環境及び公害問題に関する調査の継続調査要求書を提出することを決定した。

委員派遣

○平成31年2月18日(月)、19日(火)

○大阪府、滋賀県及び岡山県の環境及び公害問題に関する実情を調査し、もって本委員会に付託を予定されるフロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律の一部を改正す

る法律案の審査に資するため

[派遣地]

大阪府、滋賀県、岡山県

[派遣委員]

那谷屋正義君(立憲)、滝沢求君(自民)、

宮沢由佳君(立憲)、片山大介君(維希)、

竹谷とし子君(公明)、武田良介君(共産)